「架け橋リーフレット」の活用に向けて（R5.5 改訂版）

架け橋プログラム in Yokohama!

「幼保小の架け橋プログラム」（文部科学省）
全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指した全国的な取組です。5歳児から6歳児の2年間を「架け橋期」とし、「生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期」と捉え、子どもに関わる大人が立場の違いを越え、自分事として連携・協働して、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図るものです。その際、一人ひとりの多様性に配慮することも大切にしています。

令和4年度～令和6年度の3年間

「全国的な架け橋期の教育の充実とともに、モデル地域における実践を並行して集中的に推進していく」とされていて、横浜市はこのモデル地域となっています。

横浜では in Yokohama!

・幼保小の全ての段階において、「子どもの安心」と「主体的に遊びや学びに向かう姿」を大切にしています。
・カリキュラム開発会議での調査や様々な実践を分析し、架け橋期に大切にしたい子どもの姿を「問いをもち、問い続ける」姿としました。
・乳幼児期に遊びを通して育まれた資質・能力を、小学校以降の探究的な学びにつなげるために、「子どもの問い」を大切にします。

各園、校の目標や特色、それぞれの地域の特色に応じた「架け橋カリキュラム」を作成します。

「架け橋カリキュラム」作成にあたって大切にしていただきたいこと

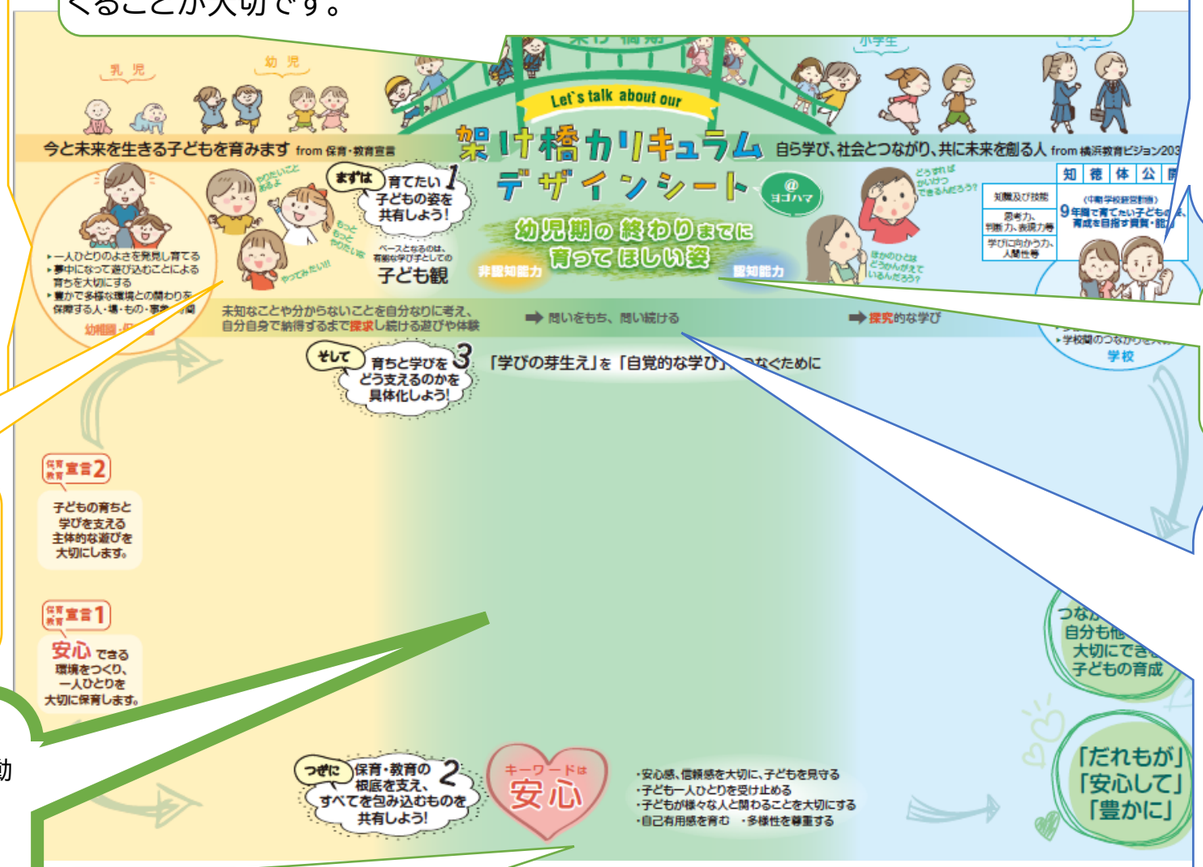
・完成させる過程で、**幼保小の保育士・教諭、さらには保護者、地域の関係者が対話・協働**することを大切にします。
・大切にしている子ども観や、援助・支援の工夫を伝え合うとともに、相手を理解し**自分の立場や施設の工夫に生かしていこうとする**つながりを大切にします。
・架け橋カリキュラムのうち、短期的な計画としての「**接続期カリキュラム**（スタートカリキュラム・アプローチカリキュラム」の充実を、今後も重視します。

架け橋カリキュラムデザインシート解説・使い方

横浜の保育・幼児教育施設では、「よこはま☆保育・教育宣言」に示された「今と未来を生きる子どもを育みます」という子どもの姿、方向性を共有し、日々の実践や家庭、地域との連携に生かしています。

また、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、育みたい資質・能力である「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」を乳幼児期にふさわしい生活を通して育むとされています。

施設の種別を超えて、具体の子どもの姿から、架け橋期の子どもに関わる大人の対話を実現し、育ちと学びを支えるために子どもが安心して渡れる架け橋をつくることが大切です。



横浜の各学校では、学習指導要領に示された育成すべき資質・能力を整理した三つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」と、横浜教育ビジョンで示された、横浜の教育が育む「知」「徳」「体」「公」「開」で表す力を９年間で育てることを目指し、教育課程を編成しています。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、小学校においても子どもの姿から資質・能力の育成を捉える手掛かりとなります。

自分のやりたいことを見つける姿、夢中になって遊び込む姿、そんな子どもの姿を大切にしています。

これまでの幼保小の事例や、カリキュラム開発会議での研究から、子どもが自ら「問い」をもち、問い続けること、解決に向けて試行錯誤を繰り返しながら協働的に学ぶ姿が、架け橋期で大切にしたい姿であることが見えてきました。

地区として大切にしたい子ども像は、どのような姿でしょうか。このままでも構いませんし、対話の中で、あらためて架け橋期に目指す子どもの姿を見出していっても構いません。

・5歳児・1年生で大切にしたい姿
・共通して大切にしたい体験や活動
・保育士・教諭の工夫
・交流活動の双方のねらい　等、
架け橋リーフレットの「話題」を参考にしながら、ここをみななさんが作っていきます。

横浜市では、「だれもが」「安心して」「豊かに」という人権教育の理念を様々な教育施設の根幹に据えています。「安心」はどの年代であっても、保育・幼児教育、小学校以降の教育の根底を支えるものであることを再認識しましょう。

対話したことを視覚化し、カリキュラムにしましょう。

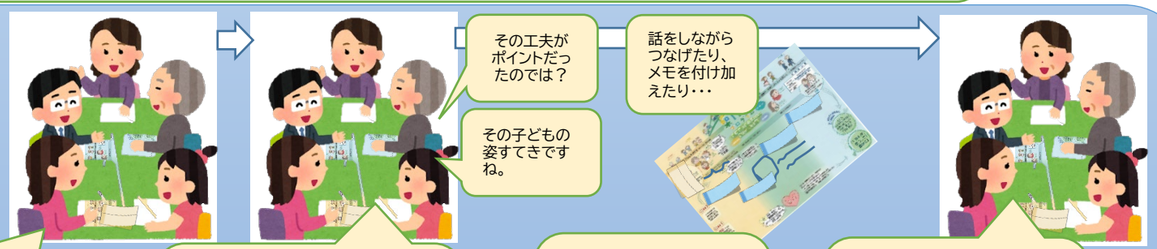
話題を選んで「問１」について思いついたことを短く付箋に書き、紹介し合います。

「問２」について対話しながら、キーワードを付箋で追加したり、直接書き込んだりします。

「問３」によって、今後の取組を考えながら、大事にしたいことをまとめていきます。

ファシリテーターを一人決めると進めやすいです。

用意するものは、小さめの付箋とペン（カラーペンもあると便利）です。



「『話題』はこれでやってみましょう」
「問1から思いつくことを、小さい付箋に一言で書きましょう。付箋の枚数は1～2まいです。1 枚に 1 つのことを書きましょう。」
「簡単に紹介しながら付箋を貼りましょう」

「問2 ・・・・・・・・・・はどうですか？」
・付箋の内容から話を広げます。
・キーワードが出てきたら、付箋に書いて足したり、直接シートに記入したりします。
・共通して大切にしたいことや、子ども観が見えてきたら、言葉に残しましょう。

※「幼保小の架け橋プログラム」は、小学校教育を前倒しすることではありません。
※「入学までにこれだけはできるようにしてほしい（したい）」といった話題にならないように注意が必要です。

「問3・・・・・・・・・・・？」
・今日の話から、自分の園や学校で大切にしたいことは？
・共通して育てたい力や、大事にしたい工夫、考え方はどのようなものでしょう？

右上のカリキュラムの作成がどう行われたのか、実際の対話の様子を「横浜市幼保小接続期チャンネル」（youtue 動画）で限定公開しています。

URL を送付しますので、横浜市の電子申請システムで申請してください。（右の二次元コードからも可）

https://www.youtube.com/watch?v=9tfURzSs15M

お願い

作成したシートの事例提供をお願いします。

【事例提供の方法】

方法1　幼保小連携担当までメールで送信。

方法2　作成したシートを学校 HP で公開
公開 URL を幼保小連携担当まで連絡。

※また、リーフレットは今後、改訂していく予定ですので、ご意見、ご感想をいただければ幸いです。

Q「対話・協働」についてですが、感染症の拡大防止などで、しばらく機会がなく、どのように進めてよいかよくわかりません。

A　5歳児・1年生が、それぞれの施設でどのように学んでいるのか、子どもの姿を中心に対話していきましょう。そのために、デザインシートの左側にある「話題」ページを参考にしてください。

Q　たくさんの園から入学してくるので、すべての施設と対話するのは難しいです。

A　横浜市には、各地区の幼保小教育交流事業があります。ブロック研修会などを活用していただければ幸いです。また、近隣や連携先の園など、できるところから始めている学校もあります。幼保小連携推進担当者だけの少人数での連絡会の開催なども行われています。

Q「架け橋カリキュラム」と「接続期カリキュラム」の違いは？

A　接続期カリキュラムは、架け橋カリキュラムの一部です。
接続期カリキュラムは、幼児期に遊びを通して育まれてきたことが、小学校の学習に円滑に接続されるよう、卒園に向けて園での遊びや活動を工夫したり、入学後、生活科を中心に指導や時間割の工夫を行ったりするものです。
一方、架け橋カリキュラムは、入学前後の短期間だけではなく、長期的な視野で、幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜながら、子どもが主体的に自己発揮しながら学びに向かうことができるようになることを目指しています。

Q　しばらくできなかった、子ども同士の交流活動に取り組みたいと思います。交流活動において大人同士が協働するとはどのような取組でしょうか。

A　交流活動の計画を立てたり役割分担をしたりすることが考えられます。その際は、お互いにねらいを共有することや、実施後に具体的な子どもの姿での振り返りを行うことが大切です。

横浜市こども青少年局保育・教育支援課
幼保小連携担当
671-3731
kd-youhosyo@city.yokohama.jp